釧路	工業高等	専門学校	開講年度	令和04年度(	2022年度)	授業科目	工学基礎			
科目基礎		A CC IT		ן אַרדיו טווינו ן	2022— <i>1</i> 2)	JX <del>X</del> TILI				
科目番号	-IIJTK	0001			科目区分	専門 / 貞	 >>修			
授業形態		実習			単位の種別と単位数		履修単位: 1			
開設学科		機械工学分	 }野		対象学年	1				
開設期		後期			週時間数	<b>½</b> 2				
教科書/教	材	各分野にお	らいて, プリント等	まにて配布する.	する.					
担当教員		大槻 典行	中島 陽子,鈴木 未	央,中村 誠,関根 孝	次,加藤 順司,伊藤 光	樹,小谷 斉之	,渡邊 駿,岩間 🛭	進介,中井 陽	子	
到達目標	Ē									
1. 5分 2. 第2	う野すべてを 2 学年進級	を体験的に学習 寺の分野選択(	♂し,それぞれの分 こ役立てることがで	分野の特徴を理解す ごきる.	ることができる.					
ルーブリ	<u> </u>		_							
			理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安		
評価項目1			, 十分な完成度 提出することが	完成度の成果物を作成・ な完成度の成身 ことができる.		₹物を作成・提出す │く不十分		の課題への取り組みが著し 分で,成果物を作成・提出 とができない.		
評価項目2			各分野の特徴をいモチベーショ 2学年進級時の ることができる	十分に理解し, 高 ンを持って, 第 分野選択に役立て ・	Ⅰ. 第2学年進級時の分野選択に役 Ⅰず. 第			野の特徴をほとんど理解でき 第2学年進級時の分野選択に てることができない.		
評価項目3	3									
学科の到	<u> 達</u> 目標項	頁目との関(	系							
	<b>育到達度目標</b>							· 		
教育方法	 法等									
概要		情報・機械	城・電気・電子・建	<b>上</b> 築の5分野の初歩	を体験的に学習する。	ことにより自?	分の分野希望の	参考とする。	とともに,	
11W 5K					ことを目的とする. 週間で体験的に学習す	する. 1 调当	りの授業時間け	3 時間であ		
授業の進め	か方・方法	3. 自分 る数少ない 合否判定:	トの進みたい道を確	望認するための重要 ドてに積極的に参加	、集中して取り組む。 な科目であり、同時( し、視野を広げる努	こ他の分野で( 力をすること.			るのかを知	
		最終評価: 補講実験: できる.	合否判定点と同じ 欠席した実験に	). ついては, その実験	美を担当する分野の了	承を経て, 適	時補講実験とし	して実施して		
<b>注</b> 字上		補講実験: できる. ,	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし, 1/5欠課 この補講実験の記	)。 ついては,その実態 時数を超えた場合。 F価を利用して科目	策を担当する分野の了 に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした	承を経て, 適 3目的で行った た場合の最終	時補講実験とし	して実施して 試験に該当す		
	3.此,愿必	補講実験: できる. , 2 学年進級	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし, 1/5欠課 この補講実験の記	)。 ついては,その実態 時数を超えた場合。 F価を利用して科目	策を担当する分野の了 に欠課時数を補填する	承を経て, 適 3目的で行った た場合の最終	時補講実験とし	して実施して 試験に該当す		
授業の属	属性・履修 	補講実験: できる. , 2学年進編 多上の区分	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし, 1/5欠課 この補講実験の記	)。 ついては,その実態 時数を超えた場合。 F価を利用して科目	策を担当する分野の了 に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした	承を経て, 適 3目的で行った た場合の最終	時補講実験とし ・補講実験は再調 ・評価は60点とす	して実施して 試験に該当す	けるものとし	
授業の属 □ アクテ	・イブラーニ	補講実験: できる. , 2学年進編 多上の区分	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ	)。 ついては,その実態 時数を超えた場合。 F価を利用して科目	策を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした要な要素となる科目で	承を経て, 適 3目的で行った た場合の最終	時補講実験とし ・補講実験は再調 ・評価は60点とす	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ	・イブラーニ	補講実験: できる. , 2 学年進級 多上の区分	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ	)。 ついては,その実態 時数を超えた場合。 F価を利用して科目	策を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした要な要素となる科目で 」 遠隔授業対応	承を経て, 適 5目的で行った た場合の最終; である.	時補講実験とし 計講実験は再調 評価は60点とす	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ	・イブラーニ	補講実験: できる. , 2学年進編 多上の区分 こング	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 改時の分野選択にあ □ ICT 利用	ののでは、その実験時数を超えた場合は 時数を超えた場合は ででではいる。 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、そのでは、 では、その実験が、 では、その実験が、 では、その実験が、 では、これでは、その実験が、 では、これでは、その実験が、 では、これでは、その実験が、 では、これでは、これでは、 では、これでは、これでは、 では、これでは、これでは、これでは、 では、これでは、これでは、これでは、 では、これでは、これでは、これでは、これでは、 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした要な要素となる科目で 」 遠隔授業対応	承を経て,適 3目的で行った た場合の最終。 である. ごとの到達目	時補講実験とした 補講実験は再調 評価は60点とす	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ <i>アク</i> テ	・イブラーニ	補講実験: できる。 , 2学年進編 多上の区分 こング 週 1週 1	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし, 1/5欠課 この補講実験の記 政時の分野選択にむ □ ICT 利用	ののでは、その実態時数を超えた場合は 時数を超えた場合は でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 ででは、 でで	検を担当する分野の了に欠課時数を補填する合 合否判定を合格とした要な要素となる科目では、 遠隔授業対応 週 情	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終 である. ごとの到達目 報分野の特徴	時補講実験とし 計構実験は再調 評価は60点とす 実務経 実務経 標	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ <i>アク</i> テ	・イブラーニ	補講実験:	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし, 1/5欠課 この補講実験の診 政時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ VET 利用	ののでは、その実態時数を超えた場合は 時数を超えた場合は でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 ででは、 でで	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした。要な要素となる科目で 」 遠隔授業対応 週 情情	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である. ごとの到達目 報分野の特徴 報分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす □ 実務経 標 を理解できる. を理解できる.	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ <i>アク</i> テ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	補講実験: , 2 学年進編 多上の区分 こング 週 1週 2週 3週 3週 ;	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし, 1/5欠課 この補講実験の記 政時の分野選択にむ □ ICT 利用	ののでは、その実態時数を超えた場合は 時数を超えた場合は でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 ででは、 でで	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした。要な要素となる科目・ 」 遠隔授業対応 週 情	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である. ごとの到達目 報分野の特徴 報分野の特徴 械分野の特徴	時補講実験とし 計構実験は再調 評価は60点とす 実務経 実務経 標	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ <i>アク</i> テ	・イブラーニ	補講実 2 学年進 多上の区分 こング 週 1 週 2 週 3 週 4 週	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 致時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ YCT 利用 □ YCT 利用	の ついては、その実際 時数を超えた場合 P価を利用して科目 S ける自己決定の重 コグラミング コグラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした。要な要素となる科目で 」。遠隔授業対応 」。 週間に 情機機	承を経て,適5目的で行ったた場合の最終である.  ごとの到達目報分野の特徴報分野の特徴械分野の特徴械分野の特徴械分野の特徴	時補講実験とし 計補講実験は再調 評価は60点とす 実務経 実務経 標 を理解できる. を理解できる. を理解できる.	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ <i>アク</i> テ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	補講実   2 学年進   8 上の区分   こング   週 1 1 1 1 2 1 3 1 3 1 3 1 4 3 1 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 政時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ Y 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	の ついては、その実態 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 らける自己決定の重 コグラミング コグラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした。要な要素となる科目 <sup></sup> □ 遠隔授業対応 □ 遺情情機機	承を経て,適5目的で行ったに場合の最終にである.  ごとの到達目報分野の特徴 械分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ <i>アク</i> テ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	補講	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択に起 □ ICT 利用 □ Y 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	の ついては、その実態 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する 合否判定を合格とした。要な要素となる科目で 」。遠隔授業対応 」。 」。 」。 」。 」。 」。 」。 」。 」。 」。 」。 」。 」。	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 報分野の特徴 械分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	補講表 2 学年進彩 シーク 3 世 の区分 こング 週 1 週 2 2 3 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 5 3 5 6 3 6 6 7 3 5 6 7 3 6 7	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にむ □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ X カニカル工房 メカニカル工房 メカニカル工房 ■ M のが ■ M	で、 ついては、その実態 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした要な要素となる科目では、 □ 遠隔授業対応 週 情 機 機 電 電 電 電 電 電 電 電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 報分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴	時補講実験とし : 補講実験は再調 評価は60点とす	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にむ □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ Xカニカル工房 メカニカル工房 メカニカル工房 ■ スカーケットの対 電磁カロケットの対 電磁カロケットの対 電子とテクノロジー	アン・フ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目では、 □ 遠隔授業対応 週 情 機 機 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 で	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。である。  ごとの到達目 報分野の特徴 報分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ス分野の特徴 ス分野の特徴	時補講実験とした 補講実験は再調 評価は60点とする。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にむ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	アン・フいては、その実際 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コブラミング コブラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす   実務経   で理解できる。  を理解できる。  を理解できる。  を理解できる。  を理解できる。  を理解できる。  を理解できる。  を理解できる。  を理解できる。  を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	アン・フいては、その実際 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コブラミング コブラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす にを理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ イブラー <u>コ</u> 3rdQ	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	アン・フいては、その実際 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コブラミング コブラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす にを理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	アン・フいては、その実際 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コブラミング コブラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす にを理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ イブラー <u>コ</u> 3rdQ	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	アン・フいては、その実際 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コブラミング コブラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす にを理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ イブラー <u>コ</u> 3rdQ	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	アン・フいては、その実際 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コブラミング コブラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす にを理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画	・ イブラー <u>コ</u> 3rdQ	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	アン・フいては、その実際 時数を超えた場合 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コブラミング コブラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす にを理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画 後期	コ 3rdQ 4thQ	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 取時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT ID IC	プロンでは、その実際時数を超えた場合を 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コグラミング コゲラミング コゲラミング コゲラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 週情情機機電電電電電	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再調 評価は60点とす にを理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。 を理解できる。	って実施して 試験に該当す 「る.	けるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画 後期	コ 3rdQ 4thQ	A	合否判定点と同じ 欠席した実験に ただし、1/5欠課 この補講実験の記 政時の分野選択にあ □ ICT 利用 □ ICT NA □ ICT	プロンでは、その実際時数を超えた場合を 呼価を利用して科目 おける自己決定の重 コグラミング コグラミング コグラミング コゲラミング コゲラミング コゲラミング コゲラミング コゲラミング	歳を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした要な要素となる科目 □ 遠隔授業対応 週情情機機電電電 建建建	承を経て,適 5目的で行った た場合の最終。 である。  ごとの到達目 報分野の特徴 械分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 気分野の特徴 ステ分野の特徴 ステ分野の特徴	時補講実験とし :補講実験は再講 評価は60点とす にを理解できる。 を理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。 を理理解でききる。	って実施して 試験に該当す 「る.	はるものとし	
授業の属 □ アクテ 授業計画 ボルニ 分類	3rdQ 4thQ	A	会では、1/5次課では	のいては、その実態時数を超えた場合を 呼音を利用して科目 のはる自己決定の重要を では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、その実態の では、といるので、といる。 では、といるので、といる。 では、といるので、といるので、といる。 では、といるので、といるので、といるので、といるでは、といるで、といるで、といるで、といるで、といるで、といるで、といるで、といるで	様を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で表際授業対応 週情情機機電電電 建建 建 またま はいている 基礎の ここと はいている はいてい はいしん はいしん はいしん はいしん はいしん はいしん はいしん はいし	承を経て、適な目的で行ったに場合の最終である。  ごは分野のの特徴である。  ごな分野のの特徴である。  ごな分野のの特徴である。  ごな分野のの特徴である。  がないののでは、はいいでは、はいいでは、はいいでは、はいいでは、はいいでは、いいでは、	時補講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再	いて実施して 試験に該当す する. 験のある教員 到達レベル 2	はるものとし	
□ アクテ 授業計画	3rdQ 4thQ	A	会では、1/5次課では	の大いては、その実際時数を超えた場合に 特数を超えた場合に 呼価を利用して科目 のはある自己決定の重 コグラミング コグラミング コグラミング コグラミング コグラミング コグラミング コグラミング コグラミング ままいまに 実験表別に付け、 実験表別に付け、安	様を担当する分野の了に欠課時数を補填する合否判定を合格とした。要な要素となる科目で基隔授業対応 週情情機機電電電 建建 建 とま験手順についる 場所 でいました はいました はいまま はいました はいまま はいました はい	承を経て、適に場合のである。  ご場合のの最終にである。  ごもののの特別のの特別のの特別のの特別のの特別のの特別のの特別のの特別のの特別のの	時補講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再講実験は再講実験は表されている。 実務経 標を理解でききる。 を理解ででききる。 を理解ででききる。 を理解ででききる。 を理解でできる。 を理解でできる。 を理解でできる。 を理解でできる。 を理解でしまる。 を理解でしまる。 やを理解でしまる。 やを理解でしまる。 やを理解できる。 やを理解できる。 やを明らかに 2 やの正しい取 2	いて実施して 試験に該当す する. 験のある教員 到達レベル 2	はるものとし	

				実験ノートや実験レ 践できる。	/ポートの記載方法	たに沿ってレポート	作成を実	2		
				実験・実習を安全性	生や禁止事項など配	記慮して実践できる	0	2		
			ĺ	個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に 取り組むことができる。				2		
				共同実験における基	基本的ルールを把握	星し、実践できる。		2		
				レポートを期限内に きる。	に提出できるように	計画を立て、それ	を実践で	2		
評価割合										
	試験		発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他		合計	
総合評価割合	0		0	0	0	100	0		100	
基礎的能力	0		0	0	0	100	0		100	
専門的能力	0		0	0	0	0	0 (		0	
分野横断的能力	0		0	0	0	0	0		0	